

## 【FdData 中間期末：中学歴史：室町時代】

### 【建武の新政・南北朝の動乱】

#### 【問題】(3 学期)

次の文の①～⑧にはいる適語を下の語群の [ ] からそれぞれ選びなさい。

御家人は、元寇のときに多くの費用を使ったのに、恩賞を十分に与えられなかったため、幕府に不満をもつようになりました。また、農業と商業の発達は、御家人たちの生活に大きな影響をあたえました。御家人のなかには、( ① )からの借金が返せなくて、領地を失う者も出てきました。幕府は( ② )を出して、売ったり質流れになったりした土地を、もとの持ち主にただで返させようとうしました。しかし、効果は一時的なもので、かえって幕府は信用を失いました。

このようにして、鎌倉幕府はゆるぎはじめました。そのうえ、武士のなかには鎌倉幕府の政治や荘園の支配に反抗する者も出はじめました。このような人たちを悪党とよびました。

こうした幕府のおとろえをみて、( ③ )は、幕府をたおして( ④ )中心の政治を取りもどそうと考え、( ⑤ )など、悪党とよばれた武士たちによびかけて兵をあげました。これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせました。

しかし、有力な御家人の( ⑥ )は、幕府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題を攻め落とし、( ⑦ )も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼしました。

鎌倉幕府がほろびると、(③)は(④)中心の政治をめざしました。この政治を( ⑧ )といいます。

(語群)

[ 足利尊氏 足利義満 足利義政 新田義貞  
楠木正成 後醍醐天皇 後鳥羽上皇  
高利貸し 徳政令 天皇 貴族 建武の新政 ]

[解答]① 高利貸し ② 徳政令 ③ 後醍醐天皇  
④ 天皇 ⑤ 楠木正成 ⑥ 足利尊氏 ⑦ 新田義貞  
⑧ 建武の新政

[解説]

御家人の窮乏と不満 → 鎌倉幕府のおとろえ

↓  
後醍醐天皇 が挙兵

新興武士(悪党)の楠木正成、

御家人の足利尊氏 が加わる

新田義貞

↓  
1333年 鎌倉幕府滅亡

↓  
1334年 後醍醐天皇 による 建武の新政

1333年に鎌倉幕府は滅亡した。滅亡の原因の第一は、御家人の窮乏と不満である。所領の分割相続と貨幣経済の進展によって御家人は次第に窮乏していった。また、元寇のとき恩賞がほとんどもらえなかったことで幕府への不満が広がった(御恩と奉公における重大な契約違反)。幕府は永仁の徳政令を出したが、その効果はうすく、かえって御家人の不満と不信をまねく結果に終わった。このような動揺をおさえるため北条氏は専制政治を強化したが、それはますます御家人の不満をつのらせる結果になった。滅亡の原因の第二は、鎌倉中期以降の経済発展によって社会が大きく変動し、これにともなって、悪党とよばれる新しい武士階層が出てきたことである。農村経済の発達とそれにともなう商業の発達によって経済力をたくわえた御家人ではないあらたな武士が成長していった。彼らの中には、荘園の年貢を奪うなど、幕府の秩序を乱す者もあり、悪党とよばれた。悪党はやがて各地に広がっていき、百姓の抵抗運動とともに、荘園領主や幕府を悩ますようになっていった。滅亡の原因の第三は、後醍醐天皇である。幕府のおとろえをみて、後醍醐天皇

は、幕府をたおして天皇中心の政治を取りもどそうと考え、<sup>くすのきまさしげ</sup>楠木正成など、悪党とよばれた武士たちによびかけて兵をあげた。これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせた。しかし、有力な御家人<sup>あしかがたかうじ</sup>の足利尊氏は、幕府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題<sup>ろくはらたんたい</sup>を攻め落とし、新田義貞<sup>にったよしさだ</sup>も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼしました。(一味さんざん(1333)鎌倉滅ぶ)

### [問題](2 学期中間)

武士と朝廷について、各問いに答えよ。

- (1) 近畿地方中心に幕府に従わない武士が成長し、年貢をうばう武士も出てきた。このような武士は何とよばれていたか。
- (2) (1)を代表する武士で、鎌倉幕府を倒すのに功績のあった人物を1人あげよ。

[解答](1) 悪党 (2) 楠木正成

### [問題](3 学期)

幕府にそむいて、京都の六波羅探題を攻めた有力な御家人は誰か、漢字で答えなさい。

[解答]足利尊氏

[問題](1 学期期末)

次の文を読んで各問いに答えなさい。

鎌倉幕府への反感が強まるのを見て、( ① )  
天皇は朝廷に実権を取りもどそうと考えた。  
( ② )などの新興武士や有力御家人の( ③ )  
ら加わり、1333年ついに幕府を滅ぼした。

その後、(①)天皇は天皇中心の政治をめざした。  
この政治のことを( ④ )の新政というが、わずか2年ほどでくずれた。こののち、60年に及ぶ動  
乱の時代の中に、守護は自分の領地を拡大し、国  
内の地頭や武士を家来として従えて、( ⑤ )に  
成長していった。

(1) 上の文の( )にあてはまることばを下から  
1つずつ選びなさい。

[ 北条義時 戦国大名 建武 平治 後三条  
足利尊氏 悪党 守護大名 後醍醐  
足利義満 文永 後白河 北条時宗  
侍所 楠木正成 ]

(2) 下線部について、なぜ2年で失敗したのかを  
上の文中の①と③の人物と次の語句を用い  
て説明しなさい。 「武士」「公家」

[解答](1)① 後醍醐 ② 楠木正成 ③ 足利尊氏  
④ 建武 ⑤ 守護大名 (2) 武士への恩賞が少な  
かったことや、後醍醐天皇の建武の新政は公家中  
心であったため、武士の間に失望が広がり、足利  
尊氏が兵をあげたから。

## 【解説】

後醍醐天皇は天皇中心の政治をめざした。この政治のことを建武の新政という。しかし、新政の大事な役には公家が多くあてられ、恩賞に不満を持つ武士も少なくなかった。

また、税の軽減は行われず、戦乱による苦しみを考えずに宮殿の造営を考えるような政治の失敗もあいついだ。こうして、しだいに公家中心の新政に不満をもつ者が多くなっていった。

こうした動きを見た足利尊氏は、新政に対抗して兵をあげ、京都で新しい天皇をたてた。これを北朝という。後醍醐天皇は吉野(奈良県)に逃



れたが、これを南朝という。足利尊氏は1338年に、北朝によって征夷大將軍に任命されて室町幕府を開いたが、幕府の支配力は弱く、このあと約60年にわたって南北朝の動乱の時代が続くことになる。(將軍尊氏勇み肌(1338))

この時代、相続をめぐるそれぞれの武士一族内部の争いが激しくなっていた。一方が北朝方につくと、他方が南朝方について戦うという形で、戦乱を拡大させた。また、幕府内部も2つに分かれて

武力で争い、内乱ははてるともなく続いた。南北朝の動乱のなかで足利尊氏は、味方になってもらいたい<sup>しゅご</sup>守護に荘園の年貢の半分を徴収する権限を与えた。これをきっかけに、守護は国内の武士を家来にしていき、その国全体を支配する守護<sup>だいみょう</sup>大名に成長していった。

14世紀末になって、ようやく各地での争いも少なくなり、1392年、三代将軍<sup>あしかがよしみつ</sup>足利義満が、南北朝を合一させ、約60年続いた南北朝の争乱は終わった。(いざ国(1392)を統合南北朝)

### [問題](3学期)

建武の新政はわずか2年あまりで失敗に終わったが、その理由を述べた次の文中の

①～③にあてはまる語句を、それぞれ漢字2字で答えよ。

( ① )への( ② )が少なかったことや( ③ )重視の政治や政策が続き、(①)の間に失望が広がったため。

[解答]① 武士 ② 恩賞 ③ 公家

### [問題](1 学期中間)

建武の新政は武士たちを失望させ、わずか2年半で終わった。その理由として、あてはまらないものをア～ウから1つ選べ。

- ア 武士への恩賞が少なかったから。
- イ 公家重視の政策が続いたから。
- ウ 鎌倉幕府の政治にもどそうとしたから。

[解答]ウ

### [問題](3 学期)

次の文を読んで、あとの各問いに答えよ。

鎌倉幕府の衰えを見た a(ア)天皇は、(イ)らとともに幕府を滅ぼし、自ら政治を行った。しかし、b(イ)は(ア)天皇を京都から追放し、新たな天皇を立て幕府を開いた。このあと、三代将軍(ウ)の代までc争乱の時代が続いた。

- (1) 文中( )にあてはまる人名を答えよ。
- (2) 下線部 a について、この政治を何というか。
- (3) 下線部 b について、この理由を説明せよ。
- (4) 下線部 c について、この時代を何というか。

[解答](1)ア 後醍醐 イ 足利尊氏 ウ 足利義満  
(2) 建武の新政 (3) 武士への恩賞が少なかったことや公家重視の政治や政策が続き、武士の間に失望が広がったため。 (4) 南北朝時代



[問題](2学期中間)

建武の新政が失敗に終わり 2つの朝廷が生まれた。①京都と吉野に分かれたこの時代を何というか。②また、吉野は現在の何県にあるか。

[解答]① 南北朝時代 ② 奈良県

[問題](3学期)

地図を見て、①～②のことがらと関連のある場所を、地図のア～カから選びなさい。



- ① 南朝がおかれる
- ② 足利尊氏が幕府を開く

[解答]① ウ ② エ

## [解説]

足利尊氏が新政に対抗して兵をあげ、京都(エ)で新しい天皇(北朝)を立て、後醍醐天皇は吉野(ウ：<sup>よしの</sup>現在の奈良県)に逃れたが、これを南朝という。尊氏は北朝から征夷大將軍に任じられて、京都(エ)に室町幕府を開いた。

## [問題](2 学期期末)

足利尊氏は征夷大將軍の位を北朝と南朝のどちらの天皇から与えられましたか。

## [解答]北朝

## [問題](3 学期)

南北朝の動乱のころの日本の政治や社会の動きについて述べた文として最も適当なものを、次から1つ選び記号で答えよ。

- ア 実力のある者が上の身分の者にうちかつ下剋上の風潮が広がり、戦国大名が登場した。
- イ 任地に代理を送って収入だけを得る国司が多くなり、地方の政治は乱れた。
- ウ 守護の多くは自分の領地を拡大し、領内の地頭などを従える守護大名へと成長した。

[解答]ウ

[問題](3 学期)

南北朝時代から、自分の領地を拡大し、国内の地頭や武士を家来として従える( )大名がふえてきた。

- (1) ( )にあてはまる語を書きなさい。
- (2) 下線部は約何年間続きましたか。次の[ ]から選びなさい。

[40年 60年 80年 100年]

[解答](1) 守護 (2) 60年

[問題](1 学期中間)

幕府が守護に強い権限を認めたため、守護は多くの荘園を自分の領地とし、国内の武士を家来として従えるようになった。このような守護を何とよぶか。

[解答]守護大名

◆社会歴史の各ファイルへのリンク

<http://www.fdtype.com/dp/sr2/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

[http://www.fdtype.com/dp/qanda\\_k.html](http://www.fdtype.com/dp/qanda_k.html)

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)  
の価格・購入方法

<http://www.fdtype.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、  
「iBooks」を開いてリンクをタップください。

【Fd 教材開発】 Mail : [info2@fdtype.com](mailto:info2@fdtype.com)